

## 災害時における住民避難行動に関する検討会（第5回）議事概要

### 1 日 時

令和元年 12 月 12 日（木） 15:00～17:00

### 2 場 所

兵庫県災害対策センター 増築棟 3 階会議室

### 3 出席委員

宇田川委員、奥村委員、亀井委員、諏訪委員代理、竹之内委員、馬場委員、廣澤委員、原田委員代理、松川委員、森田委員、矢守委員  
（欠席委員：木村委員、辻本委員、服部委員）

### 4 議事

最終報告（案）の内容について

### 5 議事概要

事務局から、最終報告（案）について説明し、意見交換を行った。  
各委員からいただいた主な意見は下記のとおり。

#### 〔 提言について 〕

（委 員） 5つの提言の「提言Ⅰ（逃げるタイミング）」と「提言Ⅱ（逃げる場所）」は順番が逆のほうがいいのではないか。まず「逃げる場所」を考えるほうが住民も取り組みやすく、行政も啓発しやすいのではないか。以前、マイ避難カードの記載にあたっては、「逃げるタイミング」を最初に考えるのは難しく「逃げる場所」を先に考えてはという意見もあった。

（委 員） 提言は、マイ避難カードの記載順と別で考えてかまわない。

（委 員） 「逃げるタイミング」は行政がぎりぎりのタイミングで行う避難勧告発令時となる可能性がある。それよりは、遠方の親族の家への早めの避難など、指定緊急避難場所以外の選択肢があることを啓発していききたいため、「逃げる場所」を1番としてはどうか。

（委 員） 「逃げるタイミング」は「逃げる場所」を決めてから逆算して決まる。マイ避難カード作成ワークショップでもハザードマップの確認から始まる。

（委 員） 住民からは「避難するタイミングが分からない」「避難する場所が分からない」と両方の意見がある。

（委 員） 自宅に留まって危険がない場合は避難場所に移動する必要はないが、平成30年7月豪雨の岡山県のように浸水が深く危険がある場合は水平避難しなければいけないことをしっかり啓発していく必要がある。ハザードマップの内容をしっかりと理解してもらわなければいけない。

- (委員) 提言ⅠとⅡはこの順番でもいいと思うが、まずは住民に自宅等が危険なのかどうか把握してもらう必要がある。
- (委員) 気象台が地域で実施している出前講座では、まずリスクを知ることが重要であると伝えている。
- (委員) 提言とマイ避難カードの記載順を一致させる必要はないのではないかと。水平避難するのは自宅等が危険な場合である。災害の種類、リスクによってどういう行動が必要になるかわってくる。
- (事務局) 以前に委員から、避難行動は「リスク認知」「判断」「行動」の順に進むと教えていただいた。最終報告(案)は、「リスク認知」を前提として記載している。
- (委員) 地域や居住環境によって避難行動は様々で、「いつ」「どこに」も順番が変わると考えられる。「提言Ⅰ(逃げるタイミング)」と「提言Ⅱ(逃げる場所)」を並列に記載するのも1つである。
- (委員) 「リスク認知」は重要である。災害の後には、役所にハザードマップを取りに来る人が多い。
- (委員) 各委員において、「逃げるタイミング」「逃げる場所」が重要であるという認識に相違はないと思われる。最終報告(案)に、まずは「リスク認知」について記載するようお願いしたい。
- (委員) 本市では、ハザードマップや避難行動等を記載した「くらしの防災ガイド」を全戸配布しており、アンケートでは7割程度の方が確認又は保管しているとの結果がでていいる。今後、「くらしの防災ガイド」をより浸透させるため「リスク認知」について記載いただきたい。
- (委員) まずは「リスク認知」が重要である。「家にいたらダメな場合がある」ということをしっかり打ち出す必要がある。
- (委員) 家がどうなるかや生活がどう変わるかが想像できないと我が事になりにくい。実際の被災の様子を報告書に入れることで、「リスク認知」に役立てられるのではないかと。

#### [ 「逃げるタイミング」、「逃げる場所」について ]

- (委員) 「避難勧告等発令により避難することを基本とする」、「指定緊急避難場所へ避難することを基本とする」と表現すると、例えば、避難勧告等を待たずに遠方の親族宅への早期避難を阻害してしまう可能性が出てくる。「基本とする」という表現は誤解を与える恐れがある。
- (委員) 委員指摘のとおり、「基本とする」はミスリードのおそれがあるので別の表現を検討する必要がある。

〔 今後の施策の方向性について 〕

- (委 員) これまでと違う点として、「逃げるタイミング」、「逃げる場所」などを具体的に検討する「マイ避難カード」の取組がある。
- (委 員) 避難行動要支援者が参加する訓練を記載してはどうか。
- (委 員) 既存の取組をブラッシュアップすることを記載してはどうか。例えば、ひょうご防災ネットアプリをどう利用していくか記載するのも1つである。

〔 その他 〕

- (委 員) 「避難場所と避難所の違い」やこの検討会で対象としている「避難」(避難所に長期滞在する「避難」ではなく緊急時に行う「避難」)について、記載が必要である。
- (委 員) 地域の自治会長等が住民を避難誘導する場合は、平時から避難に関する知識を習得しておく必要がある旨、記載が必要である。

以上